

令和4年度豊かな森を育てる府民税
事業成果及び評価結果

令和5年9月
京都府農林水産部林業振興課

目次

1. 令和4年度豊かな森を育てる府民税評価結果	2
2. 京都府豊かな森を育てる府民税事業実績	6
I 森林の整備及び保全	6
1 森林防災機能強化事業費	6
(1)地域とつくる安心・安全な森整備事業	6
(2)流木等流出防止対策事業	6
(3)山地災害防止対策事業	6
(4)森林管理アクセス整備事業	6
2 豊かな森づくり総合対策事業費	8
(1)次世代につなぐ森づくり事業	8
(2)ふるさとの里山林保全活動推進事業	8
(3)京の森林文化を守り育てる支援事業	8
(4)豊かな森の恵み創造事業	8
II 森林資源の循環利用	10
1 ひろがる京の木整備事業	10
III 森林の重要性の啓発	11
1 豊かな森林継承事業	11
IV 地域振興計画推進事業費	12
V 豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	15

令和4年度豊かな森を育てる府民税評価結果

京都府農林水産部林業振興課

京都府では、災害防止など森林の持つ多面的機能を維持するため、平成28年度から「京都府豊かな森を育てる府民税」(以下、府民税)を導入しており、第2期となる令和3年度からは、毎年度、事業の進捗や効果を評価・検証することとしました。

この度、令和4年度の府民税事業についての評価にあたり、有識者会議を開催し、「府の事業評価の妥当性、改善点や要望、今後の展開」などについて意見をいただきました。

1 有識者会議の評価結果について

(1) 総括的な評価

- 各事業における実績は到達目標を概ね達成しており、地域住民のニーズや事業評価も高く、府の事業評価は妥当
- 健全な森林づくりには、森林資源の循環利用を促すことが必要であり、森林整備と木材利用を両輪で進めなければならない中、各事業が有効に活用されている
- 単年度における目標達成率に加えて、長期的なモニタリングによる評価や、防災や獣害対策等への多様な事業効果を加味して多面的に評価することも必要
- 府民税の本来の目的に沿った活用がされるよう、市町村に対して府からの積極的な助言・指導や交付方法の見直しが必要

(2) 府による事業評価と分野別の主な意見

I 森林の整備及び保全

分野	事業名等	実績額(千円)
I 森林の整備及び保全	1 森林防災機能強化事業費	316,991
	(1) 地域とつくる安心・安全な森林整備事業	19,903
	(2) 流木等流出防止対策事業	146,016
	(3) 山地災害防止対策事業	125,072
	(4) 森林管理アクセス整備事業	26,000
	2 豊かな森づくり総合対策事業費	86,452
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	22,061
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	27,356
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	32,704
	(4) 豊かな森の恵み創造事業	4,331
計		403,443

【Ⅰ 森林の整備及び保全】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 府民税事業費の6割を防災・減災対策に活用して、流木等の原因となる危険木を集中的に撤去するとともに、風倒木跡地の整理・植栽等を行い、森林の防災機能の向上に繋げることができた ○ 地域住民による人家近くの危険木の現地調査や撤去の計画・実行を支援し、防災意識の向上へつなげることができた ○ 植栽等への支援により再生林を促進するとともに、花粉症対策品種採取圃の造成・種子の配布により府内苗木生産者による花粉症対策苗木の生産開始につなげることができた ○ 里山林の基盤整備により安全に森に入れるようになったことで、住民の里山保全意識が高まり、継続的な活動につなげることができた ○ 地域住民が、長年守り続けてきた社寺の森や名木古木の保全対策を行うことで、地域の森林文化を将来につなげる意識が高まった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 山地災害の激甚化・形態変化に対応した、非常に有効な取組である ○ 地元住民が整備要望等を挙げやすい具体的な仕組みの整備が必要 ○ 自主防災意識の高い組織が積極的に参画できる仕組みづくりや支援が必要 ○ 災害に強い森づくりを見据えた樹種選定や保育管理と併せて、モニタリングにより目指す植生の成立を確認することが必要 ○ 災害の未然防止や集落の孤立化対策として、道路沿い等重要インフラ周辺の事前伐採等の対応が必要 ○ 里山林や広葉樹林の整備が進む点や植栽後にネックとなっている保育に対して支援している点で非常に評価できる ○ 防災や獣害対策等への多様な事業効果を踏まえて、多面的に評価することが必要 ○ モニタリングによる有効な獣害対策の検討・普及を進めるとともに、林業経営が可能な箇所での再生林を必須とする制度の運用など、再生林の促進に向けた具体策の検討が必要 ○ 林業経営が可能な箇所を地図上でゾーニングして視覚的に示す等、森林所有者に分かりやすく説明することが必要

【Ⅱ 森林資源の循環利用】

分野	事業名等	実績額（千円）
Ⅱ 森林資源の循環利用	ひろがる京の木整備事業	74,357
事業評価	有識者会議の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 住宅・民間施設等の木造・木質化の支援、府民が利用する施設への木製品の導入、新たな木製品の開発に対する支援により、府民が京都の木を身近に感じる機会の創出や、府内産木材の新たな用途開発につなげることができた ○ 川上から川下の事業者間の連携により流通した木材建築物の整備に対する支援メニューを創設し、木材の安定供給を図るサプライチェーンの構築を進めることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都の木を身近に感じる環境づくりに寄与しており、木材利用を進めるうえで非常に重要な事業である ○ 府内産木材の利用が一層進むよう、府民や事業者等に対する京都府内産木材認証制度の啓発が必要 	

【Ⅲ 森林の重要性の啓発】

分野	事業名等	実績額（千円）
Ⅲ 森林の重要性の啓発	豊かな森林継承事業	9,645
事業評価	有識者会議の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナ感染拡大の影響を受けて制限されていた、府民参加による森林の保全活動や各種イベントが徐々に再開するとともに、商業施設への展示なども活用し、啓発活動を行うことができた ○ 関係機関とも連携し、WEBサイトやSNS等を活用した広報によりイベントをPRできた 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林への府民理解促進のためのイベントについて、重要な取組であるため、事業拡大の検討を含めて関係団体等とさらなる連携・協力が必要 ○ イベント等への参加人数だけでなく、イベント等を通じて森林の多様な機能に対して府民の理解がどう進んだのかという観点で評価することが必要 	

IV 広域振興局枠

分野	事業名等	実績額（千円）
IV 広域振興局枠	地域振興計画推進事業費	9,694
事業評価		有識者会議の主な意見
○ 振興局が地域の特色や地域住民のニーズに応じ、森林保全や木材利用等の啓発を行い、京のブランド産品の人材を育成できた	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各広域振興局において、地域課題の対応、地域密着型の事業展開ができています ○ 引き続き地域の課題解決に繋がる取組として期待したい 	

V 市町村交付金

分野	事業名等	実績額（千円）
V 市町村交付金	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	199,990
事業評価		有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主に防災・減災対策に活用し、地域のニーズに応じた森林整備等の対策に対応できた ○ 里山及び放置竹林における森林整備や保全活動に活用し地域の要望に対応できた ○ 木質化・木育、森林環境学習による普及啓発など、地域課題に応じた取組を促進できた 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村が自ら森林を保全していくうえで極めて重要な事業である ○ 府民税の本来の目的に沿った活用がされるよう、市町村に対して府からの積極的な助言・指導や交付方法の見直しが必要 	

(3) 指標と目標達成率

用途分野	指標	R4年度 実績値/目標値	R4年度 達成率	R4年度までの実績値 /5年間(R3-R7)の目標値
I 森林の整備 及び保全	①山地災害危険地区の整備	33箇所/20箇所	165%	71箇所/100箇所
	②溪流における災害の未然防止	38箇所/20箇所 ※内、山地災害危険地区 (30箇所)	190%	79箇所/100箇所 ※内、山地災害危険地区 (67箇所)
	③災害防止のための森林整備	184ha/200ha	92%	366ha/1000ha ※森林整備により効果が発揮される流域面積
	④再造林への補助	48ha/74ha ※内、府民税実績(18ha)	65%	110ha/445ha ※内、府民税実績 (45ha)
	⑤花粉症対策苗木の生産	2.7万本/2.5万本	108%	2.7万本/31.5万本 ※R4年度から苗木生産を開始
	⑥里山林の整備	55箇所/60箇所	92%	115箇所/300箇所
	⑦里山学習の実施	3箇所/6箇所	50%	9箇所/30箇所
	⑧地域文化と関わる社寺の森等の 整備	43箇所/30箇所	143%	90箇所/150箇所
II 資源の循環 利用	①府民が京都の木を身近に感じる 環境づくり	○建物型：住宅タイプ 150件 2,133㎡(前年比147%, 154%) 非住宅タイプ 6件 146㎡(前年比100%, 109%) 優良事例表彰、パンフレット・HP作成など ○木製品型：導入支援タイプ 35件(前年比167%) 開発支援タイプ 7件(前年比100%)		
III 森林の重要 性の啓発	①森林の多様な機能についての府 民理解の促進 (イベント参加者)	590人/600人	98%	1030人/3000人

【参考 有識者会議について】

- (1) 有識者会議の開催 令和5年8月8日
・令和5年8月8日 令和4年度事業実績と評価

(2) 有識者会議のメンバー

氏名	分野	役職等
あいこう まさとし 愛甲 政利	木材利用	(一社)京都府木材組合連合会副会長
くりやま こういち 栗山 浩一	学識経験者 (環境経済)	京都大学大学院農学研究科教授 (座長)
しのべ ゆきお 篠部 幸雄	府民協働	京都森林インストラクター会 会長
ながしま けいこ 長島 啓子	学識経験者 (森林計画)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授
みよし いわお 三好 岩生	学識経験者 (防災関係)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
もりい かずひこ 森井 一彦	森林組合	京都府森林組合連合会代表理事専務

(五十音順・敬称略)